ENEOSスーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE

第7戦　in 富士スピードウェイ





ＥＮＥＯＳ スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE
第7戦　in 富士スピードウェイ

開催地：富士スピードウェイ（静岡県）／4.563km

11月14日（予選）
天候：晴れ　コースコンディション：ドライ　観客数：20,700人

11月15日（決勝）
天候：雨　コースコンディション：ウェット　観客数：28,300人

決勝は悪天候のため２周で終了も、ランキング2位を獲得し、シーズンを締めくくる

2026年もaprは、全7大会で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」をドライブするのは、永井宏明選手と蒲生尚弥選手、小河諒選手、そして嵯峨宏紀選手。シリーズ最終戦の舞台は富士スピードウェイだ。
岡山国際サーキットが舞台のシリーズ第６戦では、予選3番手を獲得。決勝においてもドライバーのコンスタントな走りと、トラブルなく3時間を走り抜いた結果、3位となって表彰台に上がることとなった。しかし、ランキングトップのチームを上回ることができないポイント差となったため、チャンピオン獲得の夢は絶たれてしまう。
そうはいえども、ランキング2位は十分獲得可能とあって、そこは最低限の目標として、さらに今季3勝目を挙げて、有終の美を飾ることを誓う！



公式予選　11月14日（土）15:25～

11月も半ばとあって、あたりは初冬の雰囲気さえ感じさせるようになった。日中はまだしも、朝晩の冷え込みが激しく、寒暖差で体調を崩してしまいそうだ。しかし、マシンにとっては好都合。冷えた空気がエンジンを心地よく回してくれるからだ。
これまで残してきた結果によるサクセスウェイトは60kg。最終戦とあって、1/3減にはなっているとはいえ、かなり厳しい条件なのは確かだ。そのため、木曜日から開始された練習走行では、セットアップが普段以上に入念に行われた。
金曜日の午前に行われた専有走行では永井選手からの走行となり、蒲生選手による確認とセット変更の後、再び永井選手が乗り込むことに。蒲生選手が1分40秒538をマークして3番手につけ、トップ２はいずれもサクセスウェイトが軽い車両。逆に同じ60kgを積む車両とは1秒のリードをつけ好調。午後の専有走行では決勝を見据えたセットでの走行となり、蒲生選手、永井選手、小河選手、嵯峨選手の順でドライブ。蒲生選手が記した1分42秒498は5番手ながら、やはり上位は少ないサクセスウェイトの車両とあって、むしろ仕上がりは順調と言えるだろう。
土曜日の午前にもフリー走行が行われ、永井選手が1分41秒128にまで詰めたセットで、その後に蒲生選手がドライブ。1分41秒857はセッションの2番手に。最後に小河選手が乗り込み、1分43秒675を記録して、練習走行を完了した。
そして午後からは、いよいよ予選が。しかし、直前のレースでスタートディレイ等があり、ただでさえ35分遅れとなったばかりか、さらにグループ2でクラッシュがあって赤旗中断があったことで、ST-XクラスのAドライバー予選は予定より1時間近く遅れて、15時25分からの開始となった。
より下がってしまった路面温度に対し、永井選手は今回もコースインから間もなくピットに戻って、前後のタイヤを交換。その上でタイヤにはさらに熱を入れていく。再度コースインしてから3周後に1分42秒017をマークし、次の周には1分41秒077にまでタイムを詰めた結果、4番手につけることとなった。ちなみにトップの車両が積んだサクセスウェイトは、わずか15kg。これに対してコンマ8秒ほどの遅れだったのは、大健闘と言えるだろう。
続いて蒲生選手が挑んだBドライバー予選は、もう日没後。攻めながらタイヤを温めていったことで、徐々にタイムを縮めていく。計測４周目には1分40秒351を記した後、ラストアタックで1分40秒292をマーク。5番手ではあったが、これまたトップからコンマ5秒と遅れなかったことで、いかに僅差の予選だったかがわかる。実際、合算タイムにおいて「DENSO LEXUS RC F GT3」は4番手につけることになった。
なお、通常はA/Bドライバー予選の後に行われる、C/Dドライバー予選は今回行われず、いつもC/Dドライバー予選で、決勝セットの最終チェックを行なっていただけに、不安を残す格好とはなるがやむを得まい。





永井宏明選手

今回もタイヤを前後チェンジしましたけど、もしかしたらやらない方が良かったかも（苦笑）。普通の方が良かったと思う感じでした。でも、うまくまとめられた周ができたので、それは良かったと思いますね。上位の皆さんは軽さだけでなく、上手にタイム出されていたので、そのへんはさすがです。決勝は雨なら雨で、みんなでミスなく走って、表彰台争いができるようにしたいです。



蒲生尚弥選手

かなり温度は低くなっていましたが、条件はみんな一緒なので。その中でも、自分たちのパッケージのベストは尽くせたと思います。良かったです。決勝はどうなるかわからないですけど、雨が降ったら、必ず接触とかせず、ちゃんとチェッカー受けることが大事だと思いますので、焦らずにレースできたらいいかなと思っています。



小河諒選手

そうですね、長年aprはRC F使ってきて、そのまとめ的な車には仕上がっていると思います。どうしても、この車のポジティブなところとネガティブなところがありますが、ネガティブなところをチームと蒲生くん、永井さんが引き出してくれて、車としてはいちばんまとまった状態かな、と思いますので、まずはクラッシュすることなく、しっかりチェッカーまで運んで、シリーズ2位を確実に獲りにいけるように、準備したいと思います。



嵯峨宏紀選手

本当に今年最後のレースなので、何事もなく走りたいなと思っていますけど、明日は雨なので、ちょっとどうなるか読めませんね。たぶん、ちゃんとウェットタイヤを履いて、しっかり最初から最後までのレースって、あんまり記憶ないので。タイヤの保ちとか全然読めない部分、不確定要素が多いので、どうなるかわかりませんが、とりあえずランキング２位は死守したいと思っています。

金曽裕人監督

いい感じ！　サクセスウェイトがあって重いけど、それ考えたら100点です。2列目からスタートできれば、明日は問題なし！ドライバー2名のアタックは、ほんと見事でした！





決勝レース 11月15日（日）12:30～

今回は全クラス混走の4時間レースで、ドライバー交代を伴うピットストップの義務づけは３回。そしてAドライバーの走行義務は60分とされている。また、与えられるポイントは最終戦ということもあり、通常の1.5倍となるため、優勝すれば30ポイント獲得可能だ。
さて、日曜日の富士スピードウェイは、それまで保たれてきたドライコンディションから一転して、ウェットコンディションとなってしまう。朝からまったくやむ気配を見せないどころか、天気予報によれば、決勝レースの頃が最も激しく降るとも。実際、スタート進行が始まった頃の雨足は極めて強く、やがてセーフティカー（SC）スタートでの開始がアナウンスされる。
今回もスタート担当は小河選手。ちなみに、ST-XクラスでAドライバーが担当するチームはない。
定刻どおり12時30分にSCの先導でレースは開始されるが、強い雨足は保たれたまま。３周を終えたところで赤旗が提示され、全車ピットに戻ることに。
間もなくレース終了がアナウンスされ、２周を消化したことでハーフポイントでのレース成立が決定。天候回復の見込みがないこと、そして速度差の著しい過去最多68台が一斉に走ることに対する、安全性の確保が困難であるというのが、終了の理由だった。
「DENSO LEXUS RC F GT3」は、ここまで順調だっただけに、レースが続けられれば……という思いは残るが、やむを得まい。予選と同じく4位となり、7.5ポイントを獲得した結果、目標であるランキング2位をつかむこととなった。
2026シーズンは2勝を挙げ、強さを見せた一方で、トラブルで涙を飲んだレースもあった。しかし、チームとしての結束力が、過去にないほど強まったのもまた事実。来るシーズンにはより強く、より速いaprとなることを誓う。ご期待いただきたい！







永井宏明選手

今年は開幕で優勝できて、いいスタートを切れたんですけど、24時間でトラブルがあり、第２戦もそうですけど、トラブルがあってポイントが獲れなかったのがあって、チャンピオンにはなれなかったんですが、2位でシリーズ終われたので、良かったかなと思います。自分としても精いっぱい走ったので、皆さんの協力もあって、いいシーズンになったと思います。



蒲生尚弥選手

開幕戦で勝てましたし、中盤のSUGOでも優勝できて良かったと思うんですけど、少し取りこぼしがシーズン中にあったのが、残念かなと思います。RC Fの、もともといいところ、悪いところがあると思うんですけど、それも最大限、理解して運転とかドライビングとか、とても勉強になりましたし、新たな環境でレースやらせてもらうのも、自分の中でもちろんいい経験になりますので、aprでのレース活動は勉強になってます、今年も皆様に、たくさん感謝してます。



小河諒選手

すごいアンダーステアで、雨の中。嘘ですけど（笑）。今シーズン、aprチームに迎え入れていただいて、永井選手、蒲生選手、嵯峨選手と初めて一緒に組んで、スーパー耐久を１年間戦い抜くことができて、チーム最上位タイのシリーズ2位で終わることができました。やっぱり蒲生選手のすごい速さと、永井選手のレースの強さに助けられて、嵯峨選手も含めチームの強さを感じることができたんですけど、もっともっと僕も、チームにできることがあったんじゃないかと思うので、そこは来年に向けてしっかり反省と学習をして、また来年、一緒に戦う機会があれば、今よりもいい結果が出せるように、みんなで準備をしたいと思います。有終の美を飾れなかったのは、すごく残念ですけど、でも1年間、力強い走りができたaprとドライバーの皆さんに感謝しております。



嵯峨宏紀選手

終わってみて、ランキング2位は決して悪くなかったけど、最後の最後にチャンピオンは獲れなかったな、って思いはありますね。今年最後のレースだったから勝ちたかったですね。年間通して2勝したのはチームの力が大きかったと思うし。やっぱりおじいちゃんマシンなんで、いろんなところにガタが来ちゃったと思うし。その中では長い間、頑張ってくれたんで、思い入れは深いマシンだったかな、と思います。1年間ありがとうございました。

金曽裕人監督

シリーズ2位獲れて良かったです。でも、シリーズチャンピオン獲れる可能性っていうのは、十分ありましたね。開幕の２戦目の優勝と、SUGOの優勝。これは良かった。やっぱり完走できなかったレースとか、トラブル起こしたレースっていうのが、非常にもったいなかった。悲願の24時間を獲りたかったし、この前のオートポリス。ここは我々のまだ足りなかったところなので。来年に関しては、そこを全部リカバリーして、取りこぼしっていうのは絶対ないようなレースをすれば、チームの中も、メカニックもドライバーもみんな強いから、というところですね。決して思考や体力や考え方っていうのは間違いがなかったので、来年は攻めていきたいですね。



apr Racing Partners



LEXUS 桑名 | COROLLA MIE NETZ NOVEL MIE | Fuji Electric | DENSO | TPR | Arts | Shinko

OGURA CLUTCH | DAIDO METAL | ばねの東郷 | IKEDO | KURIMOTO

Racing Development TRD | LEXUS | BRIDGESTONE